短 報

右鎖骨上リンパ節穿刺吸引細胞診にて塵肺による
リンパ節腫脹と診断した1例

いわき市立総合磐城共立病院病理科

森 菊夫 浅野 重之 吉田 京子 蛭田 道子

I. はじめに

炭坑の多くが閉山となり、炭坑夫塵肺は過去の疾患と思われがちである。しかし、塵肺は不可逆性の変化であり肺内に粉塵の滞留するかぎり進行することが知られている¹⁾。今回、右鎖骨上リンパ節穿刺吸引細胞診から炭粉症と診断され、胸部X線所見とあわせて炭坑夫塵肺によるリンパ節腫脹と診断した1例を経験したので報告する。

II. 症 例

症 例：87歳、男性

主 訴：胸背部痛

職 歴：25年間炭坑勤務

既往歴：昭和30年塵肺の認定。平成5年肺炎。平成8年左胸水。平成9年脳梗塞。

現病歴：平成10年2月、胸背部痛にて受診し胸部異常陰影と左胸水を指摘され入院となった。入院後の胸部CTでは両肺野に多発性結節陰影、肺門リンパ節の石灰化、左胸水および心嚢液の貯留が認められた。両側鎖骨上リンパ節腫脹があり、右鎖骨上リンパ節穿

刺吸引細胞診の結果、炭粉症と診断した。当地区はかつて常磐炭鉱として一大興隆したことより地域的特性から考えて胸部X線で見られる所見は塵肺が最も強く推定された。喀痰や胸水の細胞診、結核菌および腫瘍マーカーの検索ではいずれも陰性であった。以上より塵肺、心不全およびうつ病の最終診断で同年4月退院し現在外来通院中である。

III. リンパ節穿刺吸引細胞所見

背景には黒色顆粒と無染色性結晶がみられ細胞質内にそれらを貪食するマクロファージと思われる細胞が散見された。これら細胞の核は主として単核で、時に2核がみられ核小体を有するものもあるが異型性はほとんどみられなかった (Photo. 1)。黒色腫細胞との鑑別のため漂白法を実施した結果、黒色顆粒は漂白されず炭粉と考えられた。さらに偏光顕微鏡による観察では背景の無染色性の結晶が鮮明に確認された (Photo. 2)。

IV. 考 察

石炭中には10~20%量の遊離珪酸を含有するため、炭坑夫塵肺にみられる高度の炭粉沈着と肺の線維化は石炭塵と同時に吸引された珪酸塵によると考えられている¹⁾。今回多量の黒色顆粒と偏光を示す無染色性結晶がみられたが、職歴と考えあわせると両者は石炭由来の炭粉と珪酸結晶と推定された。塵肺を引き起こす粉塵粒子の最も有害な大きさは0.5~2 μ mと報告されており¹⁾、この症例でも1 μ m程度の結晶が多量に認められたことより病因として十分推定しえる。

頸部リンパ節腫脹が出現した場合、臨床的には主と

A case of coal workers' pneumoconiosis with cervical lymph node swelling diagnosed by fine needle aspiration biopsy cytology from right supraclavicular lymph node

Kikuo MORI, C.T., I.A.C., Shigeyuki ASANO, M.D., Kyoko YOSHIDA, C.T., I.A.C., Michiko HIRUTA, C.T., I.A.C.

Department of Pathology, Iwaki Kyoritsu General Hospital
論文別刷請求先 〒973-8555 いわき市内郷御蔵町久世原16

番地 いわき市立総合磐城共立病院病理科 森 菊夫

平成10年10月20日受付

平成11年2月12日受理

Photo. 1 a, b: Macrophages containing voluminous black particles (Papanicolaou stain, $\times 100$)

して転移性腫瘍，結核およびその他の炎症などを考えるが，炭粉症を想定することはほとんどないと思われる。しかし当地区「いわき市」には，かつて常磐炭鉱（昭和45年閉山）があり，患者がそこに長期（25年間）にわたり勤務していたことや，塵肺の認定を受けていたこと，およびリンパ節の吸引物が結晶の混じった黒い液状であったことより前述の細胞診結果となった。ではこのように表在リンパ節まで粉塵が及んだ原因を考えてみると，患者が長命で塵肺に認定された後40年余が経過し，その時間的経過とともに粉塵がリンパ行性に拡散した結果によるものと考えられた²⁾。以上，本症のように職業的な粉塵吸入により，頸部リンパ節腫脹が引き起こされることを念頭に置く必要があると思われた。

稿を終えるにあたり，ご教示いただいた本院呼吸器科大沼菊夫先生に深謝いたします。

Abstract

An 87-year-old Japanese man, who had suffered from

Photo. 2 a: Bleaching resistance black carbon particles. b: The crystals of silica among black particles showing birefringence by polarized microscope (a: Bleaching method, $\times 20$, b: Polarizing microscopy, $\times 20$)

pneumoconiosis because he worked for over 25 years as a coal miner, visited the hospital with the chief complaint of dullness of chest and back. Chest X-ray revealed bilateral abnormal multiple nodules and calcification of hilar nodes. The fine needle aspiration biopsy cytology from the right supraclavicular lymph node revealed black fine carbon granules, silic acid salts and carbon-laden macrophages. These findings showed silicoanthracosis of the lymph node. We must be aware that cervical lymph node swelling can indicate not only carcinoma metastasis and tuberculosis but also nodal involvement of pneumoconiosis.

文 献

- 1) 瀬良好澄，姜 健栄．じん肺．山村雄一編．新内科学．東京：南山堂，1977；4：133～150.
- 2) 本間浩一．日本における珪肺症の現状．日本医事新報 1996；3772：106～107.